

○総理がどうであれ、歯を食いしばって 頑張る。これしかない。

ここで鳩山総理や小沢幹事長の問題をぐだぐだと書いてもしょうがありません。国民の支持率がどれだけ下がろうと、私たちは、政権交代によって得た国民の負託、「私たちにしか出来ない改革」を、こつこつとやり遂げることだと思っています。4年間で出来ることを、やり遂げる。これだと思っています。

子どもたちの関連では、子ども手当が半分支給されることになって、後の半分は、ちょっと考えてみようということです。来年予定される後の半分については、現金で直接渡すより、給食代に充てるとか、幼保一体化を前提にした保育施設の充実だとか、教育バウチャー(切符)にして、子どもにしか使えない工夫を加える形にすればいいのではと言う議論が出ています。私も賛成です。さらに、高校の無償化の次は大学生対策です。もらい切りの奨学金を充実させる課題に挑戦します。

文科省内で私のイニシアティブで動かしているプロジェクトも軌道に乗ってきました。次世代を支える科学技術への投資拡大、日・中・韓を中心にしたアジアでの共同研究プロジェクト、国際的な大学連携と研究者・留学生の流動化、日本語・日本文化の国際化、外国人労働者の子女教育、電子図書の著作権整理、レコード・テレビ映像やシナリオなど歴史的に価値のある文化遺産のアーカイブ図書館化など沢山のプロジェクトを抱えています。中でも、これからの教育、文化や科学技術を支えるためにも民間からの寄付(グラント)を促す新しい寄付金税制の導入や、原子力政策の中での高速増殖炉「もんじゅ」の安全運転には、もっとも労力をかけて頑張っています。

さらに、第2弾、第3弾の事業仕分けが入ったことから、この結果を踏まえて、独立行政法人や公益法人に、大鉈を振るう仕事に入ります。少し嬉しいのは、最近になって、文科省の役人たちが、私たちの本意を少しずつでも理解し始めてきたなと思えることです。笑顔が通じる職場は、ありがたいと思います。

○元気なアジアを日本の元気に

連休を使ってアジアを周ってきました。中国、韓国、インドネシア、マレーシア、シンガポールと、少し欲張りな旅になりました。アジアは、元気です。経済は、GDP が最低でも6%からシンガポールなどは16%の伸び率。鳩山政権の「東アジア共同体」構想は大賛成。今、日本で猛威を振るう口蹄疫などの家畜伝染病から鳥インフルエンザ、結核やマラリアなどの分野はもちろん、省エネやバイオマスなどの環境分野、そして、地震、水害、文化遺産の保存。原子力や宇宙の平和利用に関する協力など、アジアが共通にもつ沢山の課題分野で具体的な協力関係が構築できる可能性を確認してきました。

日本と中国、韓国の間では、留学生に対して大学間でお互いの単位の交換が出来るように、質を保証して協定を結ぶ話し合いが始まりました。アセアン諸国では、日本の大学が進出してくれることを期待しています。今回、マレーシアで日本の工科大学を設立する話がまとまりました。理学部や工学部の人材育成が、日本の工業化と経済発展の基礎を作ったと、各国のリーダーたちは、日本の大学に熱い眼差しを向けています。日本に留学生を受け入れることも大事ですが、逆に、日本の大学が海外に展開する元氣を持つことの方がもっと重要な課題であることが分かりました。

○文部科学省の役割

文部科学省には様々なお客様があります。「地球は一つの生命体のような。」という言葉が印象的だった宇宙飛行士の山崎直子さん。オリンピックのメダリスト達、中でもフィギアスケートの真央ちゃんの笑顔。IPS 細胞で一躍世界の注目を集めた京都大学の山中先生やノーベル賞、文化勲章受賞者の皆さん。「一緒に握手が出来て写真が取れてええなあ。」と、皆にうらやましがられます。しかし、実は、もっと「ええこと」があります。こうした世界のトップを走る人たちの「人間の輝き」に接することが出来たことです。一人一人、確信を持って自分の世界を生き抜いていることが伝わってきます。